

## 令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年(2026年)3月18日

札幌市立あいの里東中学校

校長 廣田 豊

## 1 本年度の重点目標

- (1) 「学ぶ力」を培う
- (2) 「豊かな心」「健全な人間関係」を培う
- (3) 「健やかな体」を培う
- (4) 「信頼される学校」の創造
- (5) 「国際的な広い視野」の育成を含めたあいの里東中学校らしい教育活動の推進と開発

## 2 本年度の運営方針

- (1) 教職員の協働体制を基盤とする学校運営(チームあいの里東中)
- (2) 一人一人の生徒を大切にされた教育活動の推進
- (3) 家庭・地域・関係機関との連携による学校教育の充実
- (4) 本校学校文化を継承するとともに、特色ある学校づくりへの意欲的な研究開発

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価 (A十分達成できた、Bおおむね達成できた、C少し不十分だった、D不十分だった)

分野	評価項目		自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	1	重点目標の内容は学校や生徒の実態から見て適切である。	B	目標としては適切であるが、「豊かな心」「健全な人間関係」を培うための取組を充実させるよう努める。また、教育課程の見直しを常に図り、適切な編制と実施に努める。	A	A
	2	調和のとれた教育課程を編成している。	A	教科の標準授業時間を確保し、適切に生徒の活動時間を保障するように努める。総合的な学習の時間では3年間を見据えた柱を明確にし、系統立てた指導に努める。	A	A
	3	自己存在感や社会性を育んでいる。	B	自分が必要とされていると感じている生徒は68.6%であり、比較的低い割合である。今後は一層生徒一人一人との対話を大切に、生徒と教職員、地域とともに学校づくりをしていくことで、生徒の社会性を育んでいく。	A	A
	4	重点目標への教職員の共通理解や機能化が図られ、協働して活動している。	B	学年会や校務部会、さらに職員会議、何より日常的に、全教職員でどのように生徒を育てていくかの共通理解を深め、共通の認識や目線で実践していく。	A	A
学校関係者評価委員によるご意見		自己存在感を感じられている生徒の割合が低い。家庭での様子も伺いながら、一人一人が自信がもてるよう支援してほしい。				
学習指導	5	基礎・基本の定着と活用を図る指導に努めている。	B	基礎・基本の定着のために、日々の授業を充実させる。今まで以上にきめ細やかな、個に応じた指導を行う。また、生徒が見通しをもって学習に取り組むための工夫や授業改善に努める。	A	A

	6	一人ひとりの意欲につながる適正な評価に努めている。	A	個々の生徒への働きかけや助言の機会を増やし、適切な励ましを継続していく。評価方法について研鑽を積み、指導と評価の一体化を実現するよう努める。	A	A
	7	各教科において、ICTの活用と言語活動を高める工夫に取り組んでいる。	A	端末を使う活動で友達の意見を進んで知ろうとしている生徒は75%いるが、自分の意見を進んで伝えようとしている生徒は62%である。今後は一人一台端末を学習道具として活用させながら、言語活動の一層の充実を図る。	A	A
	8	命の尊さや思いやりなど豊かな心を育む教育活動を行っている。	B	道徳科の授業を要として、改めて教育活動全体を通して思いやりの心など豊かな心の育成に努める。併せて、外部講師の活用や体験活動の一層の充実を目指していく。	A	A
学校関係者評価委員によるご意見		相手の立場に立って考えられるようになってほしい。命の尊さについて、学校で一層力を入れて教育してほしい。				
分野	評価項目		自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生活指導	9	生徒指導において情報交換が行われ、一致した指導体制で臨んでいる。	B	生徒指導部が中心となり、当該学年だけでなく職員全体で情報を共有し、教職員が一体となって生徒指導に努めたい。また生徒の悩みが多様化している実態に合わせ、研修会等の充実を図る。	A	A
	10	いじめや不登校、不適応生徒に対して組織的に適切な対応をしている。	A	担任だけでなく、学年体制で指導に関わることで、成果が見られた。次年度も、教育相談やいじめアンケートの実施と活用をすすめ、学びの支援委員会を中心に、教育相談の充実やスクールカウンセラー、関係機関との連携強化、全職員で協力して指導に当たる体制をつくり改善に努める。	A	A
	11	基本的な生活習慣や態度の育成に努めている。	B	規則正しい生活を送ることの大切さを伝え、見通しをもちながら行動できるように支援していく。学校と家庭が連携しながら、生徒に基本的な生活習慣を身につけさせたい。	A	A
	12	ふれあいを大切にし、一人一人への生徒理解に努めている。	A	常に生徒に寄り添いつつ、対話を大切に、相互の信頼関係を深めていく。職員間の情報の共有化に努めていく。	A	A
学校関係者評価委員によるご意見		コミュニケーションが新型コロナ流行前後で変化してしまっている。意思の疎通が難しくなっている。学校はもっと常識的なことができる環境であってほしい。ふれあいを大切にしてほしい。地域も関わりながら基本的な生活習慣を身に付けさせていきたい。				
教育環境	13	P T A 活動の充実や地域・近隣学校との連携を図り、本校の教育活動への理解と協力を得られるよう努めている。	B	令和8年度より、札幌らしいコミュニティ・スクールが実施される。本校の教育方針や目指す生徒像を共有し、地域が一体となった取組を進められるように準備をしていく。	A	A

	14	安全・安心な環境づくりと指導に努めている。	C	57%の生徒が「学校が安全である」と感じられていない。落ち着いた雰囲気ではないため、生徒や保護者が不安を抱いている。組織的な対応を強化し、教職員全体が同一歩調で指導にあたることで、学校が安心な空間となるように努める。	A	A
	15	朝の読書などを通して、読書活動の推進を図っている。	B	朝学活前を落ち着いた雰囲気ですごすことができるように、朝読書の取組を継続する。学校図書館の活用もすすめ、生徒の読書活動の充実を一層図っていく。	A	A
学校関係者評価委員によるご意見		安心な環境づくりについて、先生方に取り組んでいただくしかない。大人である先生方の姿を見せ、いい学校をつくってほしい。学校、家庭、地域が三位一体となって子どもを育てていく姿勢を大切にしたい。				